

令和6年度第1回霧島ビーチパーク都城ビーチタッチフット大会 実施要項

主催 都城地区ラグビー協会
後援 都城シティライオンズ
主管 都城工業高校ラグビー部 都城高校ラグビー部

- 1 日時 令和6年9月23日（月）振替休日 8時30分までに受付終了
- 2 会場 霧島ファクトリーガーデン 霧島ビーチパーク
- 3 参加チーム（出場申し込みはメール・FAX・下記QRコードからでもできます）
 - （1）小学生から大人まで1チーム10人まで。
 - （2）出場は5人（入れ替わりは自由。入れ替わりのルール有り。ルール参照。）
 - （3）参加チームが多ければカテゴリー別、少なければハンディルールでカテゴリーを混ぜて実施。
（例 小学生5人对中学生4人 小学生5人对高校生3人等）
 - （4）初心者が参加する場合は2人まで出場人数にカウントしない。
（例 経験者5人+未経験者2人で最大7名がコートに入ることができる。）
- 4 競技方法（競技規則は下記参照）
 - （1）日本ビーチタッチ協会規定の競技規則による。（一部ローカルルールあり）
 - （2）試合時間は、5人制の7分ハーフとする。（ハーフタイム2分）
※出場チーム数により、変更の可能性があります。
 - （3）得点は、トライ3点、エキストラポイント1点、エクスプロージョンポイント2点とする。
 - （4）同点の場合は、マッチポイント方式（時間がない場合は3人のジャンケン）で決定する。
※マッチポイント方式……エキストラポイントを片方が失敗するまで交互に行う。
 - （5）特別ルール
 - 1）未経験者女子へのパス（フロントパス含む）はキャッチするまで妨害してはいけない。
※インゴールゾーンは適用しない。
 - 2）未経験者女子がトライした場合はトライ5点、エキストラポイント3点、エクスプロージョンポイント4点とする。（ハンディルール適用の場合）
- 5 試合方法
参加チーム数により事務局が決定する。
- 6 日程
開会式・閉会式・試合等の日程については後日連絡します。
- 7 賞品
 - （1）各部門の優勝チームや上位チームには賞品を準備。
（都城市内食事券・季節の野菜詰め合わせ・米・ビール1箱 他）
 - （2）初心者には参加賞があります。
 - （3）賞品の詳細については、参加申込み終了後決定し詳細を連絡します。

8 その他

- (1) ビーチタッチのやり方については、ルール動画（下記 QR コード）をご参考下さい。
- (2) 動画でも分かりにくい場合はビーチタッチ講習会を 8 月 31 日土曜日 13 時から高城運動公園屋内練習場で実施します。
また、日程が合わない場合は出張で講習会可能ですので、申込みに第 2 希望日まで記入して申し込んで下さい。平日夜も可能。（場所の確保をお願いします。）
- (3) 当時雨も予想されます。コート周辺にテント設営可能ですので各チームで準備して下さい。
- (4) 肖像権に関する取扱いについては、大会に申し込みされた時点で承諾したものととして対応します。大会の様子を写真や動画に撮り、報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります

9 問い合わせ先

都城工業高等学校 丸田光二 TEL 0986-22-4349 携帯 090-3413-9835
E-mail : marukou@miyazaki-c.ed.jp



ルール説明動画



申込フォーム

8/26 申込締切

このまま送信して下さい 8/26 (月) 締め切り

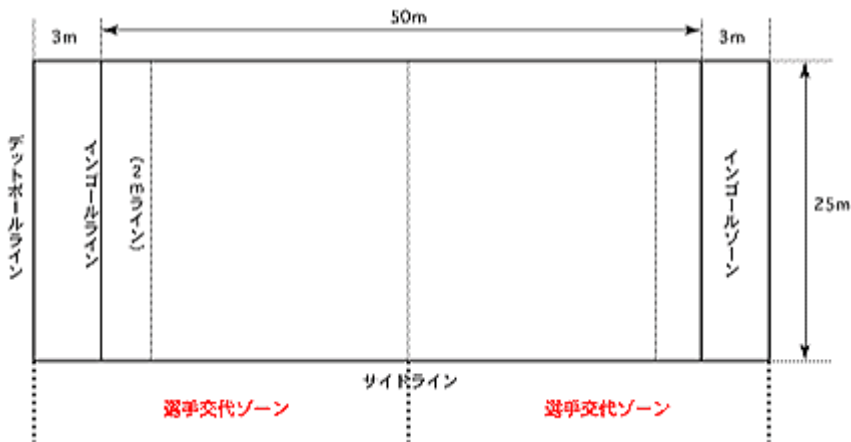
霧島ビーチパーク都城ビーチタッチフット大会 申込み

送信先 都城工業高校 丸田光二 FAX 0986-22-5877
E-mail marukou@miyazaki-c.ed.jp

チーム名			
代表者名		携帯	
		メール	
チーム登録メンバー			
氏名	学年 or 年齢	性別	経験 or 未経験
1		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
2		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
3		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
4		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
5		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
6		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
7		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
8		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
9		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
10		男 ・ 女	経験者 ・ 未経験者
8/31 講習会申込み			
8月31日講習会	参加 ・ 不参加		参加人数 名
出張講習会 申込み			
第1希望日	月 日 曜日	時～	参加人数 名
場所			
第2希望日	月 日 曜日	時～	参加人数 名
場所			

霧島ビーチパーク都城ビーチタッチフット大会 競技規則

1 競技場とその名称



2 プレーヤーの人数

- (1) チーム登録の人数は10名以内とする。
- (2) 試合は双方5名以内のプレーヤーで行う。
- (3) プレーヤーの交代、参加
 - ・プレーが途切れた時からセットプレーまでに随時行うことができる。
 - ・セットプレー後、5名より少ない人数でも次にプレーが途切れるまで新たなプレーヤーは参加できない。
 - ・交代で入る選手は、自チームの選手交代ゾーンからのみ交代できる。交代ゾーン以外から入った場合はそのプレーヤーはプレーできない。プレーした場合は反則となり、メンバーズオーバーの反則と同じ方法でプレーを再開する。
 - ・交代で出る選手は、両手を挙げ明らかにプレーしない意思をみせるか、ゲームに影響のない競技区域外に素早く移動する。その状況になれば、交代プレーヤーはコートに入っても良い。
- (4) セットプレー時に、5名を超えるプレーヤーが競技区域内にいる時は、メンバーズオーバーの反則とする。
反則があった場合は
 - ・攻撃側の場合は、反則があった時点でのボールの位置で攻守交代とする。
 - ・守備側の場合は、反則のあった時点でボールの位置より5m前進してプレーを再開する。

3 競技方法

- (1) 試合はセットプレーによって開始し、プレーヤーは競技規則の範囲内で次のことができる。
 - ・ボールを捕り又はボールを持って走ること
 - ・ボールをパスすること
 - ・ボールを持ったプレーヤーにタッチすること
 - ・攻撃側は5回の攻撃権を持ち、タッチされる事で1回の攻撃権を失う。5回の攻撃権が消滅した時点で攻撃権は相手チームに移る。
- (2) プレーヤーはいかなる場合もボールをキックすることはできない。レフリーがキックしたとみなした場合は、そのプレーのあった地点で攻守交代とする。

4 セットプレー

- (1) セットプレーとは、再開地点から攻撃側プレーヤー1人（スナッパー）が両足の間からボールを後ろに投げることによって、後方にいるプレーヤー（レシーバー）にボールを渡すことによって開始されるプレー
- (2) タッチされた後、攻撃権がある場合のセットプレーでは、タッチされたプレーヤーが速やかにスナッパーとなる。スナッパーは交代したりできない。反則の場合はその地点で相手の攻撃権が変わる。また、速やかでない場合は遅延行為とみなし相手の攻撃権が変わる。
- (3) スナッパーがレシーバーにボールを渡す時に以下の事は反則となり、相手の攻撃権が変わる。
 - ・ボールを転がす又はボールを落とし地面に落ちて渡す
 - ・ボールを手渡しする
 - ・スナッパーの両足が地面についていない
 - ・レシーバーが捕球した位置がスナッパーの後方直線上でない
 - ・レシーバーが捕球した時、スナッパーから1 m離れていない
 - ・スナッパーのダミーパス（投げると見せかけて投げない）
- (4) スナッパーは本来の再開地点よりサイドラインに並行して後方であればプレーを開始することもできる。
- (5) スナッパーの位置が再開地点より前で再開した場合は、ポイントオーバーの反則とし、本来の再開地点で相手の攻撃権が変わる。
- (6) インゴールラインから2 mラインの間で再開の場合はインゴールから2 m下がった地点で再開する。間で再開した場合は、2 mライン上で相手の攻撃権が変わる。
- (7) セット時から5秒以上経過してもプレーを行わない場合はオーバータイムの反則としてその場で相手の攻撃権が変わる。

5 ボールダウン・スローフォワード

- (1) 次の行為はボールダウンといい、起こった地点で相手の攻撃権が変わる。
 - ・プレーヤーがボールを落とし地面につく
 - ・ボールがプレーヤーの手や体に当たり地面につく
 - ・ボールを持つプレーヤーが転倒などし、ボールが地面につく
 - ・パスしたボールが誰にも触れることなく地面につく
- (2) 次の行為はスローフォワードといい、パスした地点で相手に攻撃権が変わる。
 - ・自分より前にいる人にパスをすること。ただし、フロントパスはこの限りではない。
 - ・味方に当たったボールが前に行き、前にいる味方がキャッチすること。

6 フロントパス

- (1) 5回の攻撃権のうち1回だけ、前にパスできるフロントパスを使うことができる。
- (2) フロントパスは、パスの動作の起点からボールリリースまで肩から上の上投げでなければならない。ただし、上投げでも自分より後ろにパスした場合はフロントパスにはカウントされない。
- (3) フロントパスにおいて、攻撃側がキャッチできない、または守備側にカットされたり捕られた場合はフロントパスは不成功となり、ボールを投げた地点で相手の攻撃権が変わる。

7 タッチ

- (1) タッチとは守備側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーの肩から下に対して両手を同時にふれることである。片手はタッチと認められず、肩から上にタッチした場合や危険であるとみなされるタッチは危険なプレー扱いになり反則になる。
- (2) タッチの成否はレフリーが判断し、タッチの場合は笛を吹き、攻撃権がある場合はタッチのあった地点でセットプレーで再開する。
- (3) 攻撃側は、守備側に5回タッチされるまで攻撃することができる。5回目のタッチで攻守交代となる。
- (4) スナッパーから最初にボールをもらったレシーバーが、パスする前に守備側にタッチされたら、タッチされた地点で攻守交代となる。
- (5) 攻撃側が自チームのインゴールゾーンでタッチされた場合は、相手に攻撃権が変わり、インゴールラインから2mの地点で相手のセットプレーで再開する。
- (6) インターセプトした守備側がタッチされた場合は、タッチ1回と数え、攻撃権は残り4回タッチとなる。

8 得点方法

《トライ》

攻撃側のプレーヤーがボールを保持し、守備側のインゴールゾーンにボールが入ればトライとなり3点が与えられる。

- (1) ボールの先端がインゴールラインに到達すればトライで、タッチとトライが同時の場合はトライとする。
- (2) フロントパスでトライする場合は、片足が競技区域外の地面についていない状態でボールの先端がゾーン内にある状態でキャッチすればトライとなる。空中でキャッチした場合はインゴールゾーン内に体があればトライ。片足が競技区域外の地面についていたり、インゴールゾーンを出て空中キャッチした場合はノートライとなる。その場合はインゴールから2m地点で相手セットプレーの再開となる。
- (3) デッドボールライン、サイドラインは触れると競技区域外扱いとなり、インゴールラインはインゴールゾーンに含まれる。

《エキストラポイント》

トライしたチームには得点の機会が与えられる。この場合、攻撃側3人、守備側2人でトライした地点からサイドラインに平行に引いた線とセンターラインが交わる地点でセットプレーにより開始する。この攻撃でトライすると更に1点が追加される。

- (1) 攻撃権は1回のみで、フロントパスを1回使うことができる。
- (2) エキストラポイントはレフリーの笛で開始し15秒以内に得点しなければならない。
- (3) エキストラポイントの権利は放棄することができる。この場合は放棄することをレフリーに宣告しなければならない。

《エクスペロージョンポイント》

エキストラポイント獲得の攻撃中に、守備側が攻撃側のパスをインターセプトし得点する事。成功するとインターセプトした守備側に2点が与えられる。

- (1) フロントパスを1回使うことができる。
- (2) 得点獲得の為の制限時間は、エキストラポイント獲得開始時の時間が適用され、インターセプトした時点からカウントしない。

※エキストラポイント、エクスペロージョンポイント終了後セットプレーの際は、レフリーは笛をふかない。攻撃権を持つチームが随時開始する。

9 ラインオーバー

- (1) ボールを持ったプレーヤーの片足又は両足が競技区域外に触れた場合そのプレーヤーの相手側チームに攻撃権を与える。
- (2) またはボールが競技区域外地面に触れた場合、ボール持っているプレーヤーもしくは最後にボールに触ったプレーヤーの相手側チームに攻撃権を与える。
- (3) それぞれプレー再開の地点は下記のとおりとする。
 - ・プレーヤーもしくはボールがサイドラインを越えた場合の攻守交代については、サイドラインを越えた地点からインゴールラインと平行にプレイグラウンドに2 m入った地点
 - ・プレーヤーもしくはボールが自陣のデットボールライン越えた場合はインゴールラインからプレイゾーンに2 m入った地点

10 オフサイド・オフサイドライン

- (1) 攻撃側のオフサイドラインはスナッパーの位置を基準としてゴールラインに並行してサイドラインまで引かれた規定上の線。
- (2) 守備側のオフサイドラインは攻撃側のオフサイドラインから2 m後退した線。
- (3) 攻撃側のスナッパーの手からボールが離れる前に、守備側がオフサイドラインから前に出てプレーをしたときはオフサイドの反則となる。又、攻撃側も同様の時にスナッパーを越えてプレーしたときもオフサイドの反則となる。
- (4) 攻撃側のオフサイドについてはオフサイド地点で攻守交代とする。守備側のオフサイドについては、オフサイド地点から5 m後退させ攻撃側に第1回目の攻撃権を与える。

11 オブストラクション (妨害行為)

- (1) ボールを持ったプレーヤーにタッチしようとするプレーヤーを、他の攻撃側のプレーヤーが、身体の接触のあるなしに関わらず故意に妨害したとみなされるプレー
- (2) プレーの目的に正当に準じて身体が接触しているとみなされる意外の身体的接触（手で掴む、突き飛ばすなど）は妨害行為とみなす。
- (3) 守備側選手が攻撃中攻撃側選手の保有するボールを直接、手又は足で叩いたり、奪う事により妨害するプレー
- (4) 妨害行為があった時は、
 - ・攻撃側...その地点で攻守交代
 - ・守備側...その地点から5 m後退し攻撃側の第1回目の攻撃権とし開始する。但し、フロントパスにおいて、パスを捕球しようとするプレーヤーに対して妨害行為があった場合は
 - ・攻撃側...フロントパス不成功としてパスが投げられた地点で攻守交代
 - ・守備側...フロントパス成功とし、妨害行為のあった地点で1回目の攻撃として再開する。

12 危険なプレー

- (1) 必要以上に激しくタッチする、タッチの際に相手の衣服を掴む、体を掴む（ホールディング）する。
- (2) ボールをもったプレーヤーの肩から上にタッチする。
- (3) ボールをもったプレーヤーが、タッチしようとする相手に身体を故意にぶつけていく行為の他レフリヤーが著しく危険であると認めた場合は危険なプレーとみなす。
- (4) 危険なプレーがあった時の罰則は反則を犯したチームは自陣インゴールラインまで後退し、相手側チームは敵陣2 mライン中央より第1回目の攻撃でプレーを再開する。